

平成26年度事業計画
平成26年4月1日～平成27年3月31日

<目的>

子どもたちの生きる力を育むことを目的として、平成26年度は、公益性に配慮し教育育成支援活動「こどもの教育に関する教育支援事業」「こどもの教育に関する教育相談事業」「こどもの教育に関する教育研究事業」の3事業（10項目）を遂行。また、その他の事業として、公益事業拡大のための収益事業（不動産賃貸業）、新たに寄付金の募集を実施。

<目標>

1. 児童期・思春期の子ども達が自信をつけるために、または自信を失わないために、どのような働きかけが重要なのか、これまでの実績を踏まえた検証と社会への情報発信。
2. 高校生・大学生・教育指導者等を対象とするさまざまな研修を実施し、さらに人材育成を活性化。

<方法>

1. 東京大志学園の学習支援・進路指導・コミュニケーション力向上を包括的に実現できるカリキュラムの開発・実績の精査。
2. 各種研修の実績の精査・検証に基く講師等の充実化。

各事業の詳細10項目は、次の通り。

I 子どもの教育に関する教育支援事業

1 方針

子ども達の感性や自信を引き出すための教育支援事業を様々な角度から実践し、活動内容の充実を図る。特に本年度は、身体表現や五感を養う体験型の活動の場の提供にも力を入れ、「学ぶ喜び」「健全な心身の発達」「コミュニケーション力」「自主性、社会適応力」を育むとともに、それらの成果を全国の教育機関に普及できるように、実践のみならず、丁寧な分析、社会への情報発信にも力を入れることとする。

2 実施計画

(1) 不登校児童・生徒の学校復帰に対する支援活動等

① 東京大志学園の運営

不登校の子ども達に対応する学校復帰支援の精度を上げるための「教育プログラム」、「スタッフの募集育成」、「情報発信」、「保護者連携」等活動の強化。

新規教室展開のための運営・教務のマニュアル作り。

その他、こども教育に関する内容や当財団の公益事業活動を刊行誌（紀要を含む）に掲載公表。

(2) 自然体験活動

① 親子宿泊体験教室

段階的に集団に馴染めるプログラムの実践を通じ、集団活動やコミュニケーションに対する自信回復を図る。

効果的に自尊心を育むカリキュラムの精査、開発の必要条件等を調査分析し、親子を元気にするプログラムの開発。

② その他 課外活動、自然体験イベントの開催

春期は海岸清掃や稲作、夏期は野外炊飯や野外活動、秋期は収穫や調理、ハイキング、冬期は初詣やスキーなど季節に応じた行事を開催。その他、年間を通じて、芸術鑑賞などを実施。

(3) ポスターコンクール

① 第6回環境教育ポスターコンクール

子ども達が環境問題について考え、環境を保全するために何ができるかを考える機会になることを目的としたコンクール及び表彰式等を開催。

ア 実施期間 募集要項配布（5月～7月）、募集期間（9月～10月）

審査（10月～11月）、表彰式（11月）

巡回展示（12月～2月）

イ 実施場所 首都圏、関西圏、中四国圏他

ウ 対象者 国内外 小中学生、高校生 4,000名

(4) 中学校等の進路選択支援事業

① 進路選択支援事業

将来の進路選択に重要な、中学生の時期に多様な進路選択の紹介や、生徒が考える仕事感など他の進路支援の組織とも連携し、アンケート調査やそれぞれをもとにした資料の作成・配布の実施。

(5) 教育施設運営

① 高等学校通信制等

高等学校通信制等の課程に在学する生徒の「学習負担の軽減」「教育機会の拡充」「学習の効率化」等を図るために教育施設を運営。

この施設で学ぶ生徒の教育学習の向上・社会的対応能力の修得を支援。

ア 実施場所 鹿児島県

イ 対象者 高校生

(6) 海外体験活動

① 海外教育事情体験

ニュージーランド教育事情視察をテーマとし、教育政策が高く治安の安全なニュージーランド教育事情等を体験させることで、アジア近隣諸国の国際的関係を学びグローバルな社会性を身につけることを目的とした教育支援活動。

II 子どもの教育に関する教育相談事業

1 方針

「思春期の子ども達の力を引き出すための開発的なアプローチを考える機会」、「子ども達同士が問題や対立を解消できるようにするための予防的なアプローチを考える機会」、「教育諸問題に対する対処的なアプローチを考える機会」の提供を積極的に全国各地で実施。また、他団体が行う、子ども達の悩みなどの問題を解決していくための公益活動事業に関し、財団として支援する。

2 実施計画

(1) 講演会、進学指導説明会・相談会、相談会

① 教育シンポジウム

テーマ・講師の充実をはかり、思春期の子ども達の問題解決能力の向上を目指す場を全国に拡大。

各回のテーマは、教育に関する諸問題から選定し、体験者・専門家・参加者が連帯感をもったシンポジウムを年間約 30 回開催。

② 不登校中学生・保護者のための進路説明相談会

体験発表、しくみ・地域の特性・高校選びのポイントの説明
個別相談年間約 23 回。

③ 教育相談

財団ディレクター、財団研究員等による支援活動

医師、臨床心理士、学校心理士等財団協力者による支援活動

(2) 人材養成研修

① 学習心理支援カウンセラー

教育学・心理学の理論と実践を往還できる教育関係者、コーディネーターの育成を、年齢や経験値に合わせ 4 段階に分け研修会を開催。

学校管理職、教育行政関係者に対し幅広く資格受講・認定ができるよう資格の整備。他、講師の見直し、テキストの改編。

【入門課程】大学生・大学院生 50 名

【基礎課程】教職員・教育行政関係者 100 名

【実践課程】教員 35 名

【専門課程】教員 20 名

② ピアアシスタント

円滑な人間関係を構築し、サポートシップを育成し友人へのサポートができる人材の育成を目的とする。2段階の課程（基礎課程・専門課程）で研修、資格付与を行う。他、講師の充実・テキストの見直し。

Ⅲ 子どもの教育に関する教育研究事業

1 方針

教職員等の資質向上のための研修内容、プログラムの開発を行い、積極的に全国各地の教育関係者の指導力、意欲を向上させるための学びの場を提供できるよう調査研究、実践。

2 実施計画

(1) こどもの育ちを考える研修会とシンポジウム

① こどもの育ちを考える研究会

大学教授等で構成する研究会において、教員養成のための研修内容、プログラムの作成。教員等の学びの場としてのシンポジウムの開催。

(2) 乳幼児指導者養成研修

① 乳幼児ケアヘルパー（初級）、子育て支援プロジェクトリーダー

乳幼児の健全な育成に関する効果的・実証的な開発カリキュラムに基づく指導者育成研修（講義、実習、試験）。

Ⅳ その他目的を達成するために必要な事業

(1) 不動産賃貸事業

(2) 寄附金募集